基調講演

サロンにおけるリスクマネジメント

～プロとして知っておくべき皮膚感染症感知識とサロン衛生管理～

後藤　由美子　公益財団法人 日本エステティック研究財団 理事
株式会社 美･ボーテ研究所 代表



エステティシャン向けの技術やサービスが高度化する現代において、サロン経営におけるリスクマネジメントの重要性はかつてないほど高まっています。その中でも見落とされがちなのが、プロとして知っておくべき皮膚感染症の知識とサロンでの衛生管理です。サロンの現場では、お客様自身が全く自覚のないまま皮膚感染症を抱えて来店されるケースが少なくありません。エステティシャンが施術前の肌チェックでこれらを見極める確かな知識を持っていなければ、施術の刺激によって症状を悪化させてしまう恐れがあります。それだけでなく、施術者自身への感染や他のお客様への二次感染を引き起こし、最終的にはサロンの信用失墜という取り返しのつかない事態を招きかねません。だからこそ私たちは、プロとしてそれらを見極めて適切に対応することの重要性を正しく理解する必要があります。

私たちが日々の現場で特に警戒すべき代表的な皮膚感染症として、まずは微小な傷から感染し周囲に拡大しやすいウイルス性イボが挙げられます。また、バリア機能が低下した肌に好発し、強力に感染する伝染性膿痂疹（とびひ）などの細菌感染症にも細心の注意が必要です。また、梅毒は近年感染者が増加している疾患として知っておくことが必要です。

さらに、高温多湿な夏場に急増する白癬や、激しい痒みを引き起こし、直接的な接触だけでなくタオルの共用などでも感染が拡大する疥癬のリスクも見逃せません。

これらのリスクからお客様とサロンを守るためには、サロン内感染を徹底的に防ぐ衛生管理策が不可欠です。施術前後の手指消毒や器具のエタノール清拭、そしてターバン、ガウン、シーツ類の一客ごとの交換を徹底し、感染経路を確実に遮断することはプロの義務です。また、実際に肌の異常を発見した際のカウンセリング対応こそ、エステティシャンの真価が問われます。「これはうつる病気なので施術できません」と病名を断定して拒絶するような対応は、お客様に不安と不快感を与える最悪の例です。医療行為にあたる診断を避けつつ、お客様の気持ちに寄り添い、お肌を最優先に考えた代替案を提示することも私たちができることです。皮膚感染症の正しい知識は、お客様とサロンの双方を守る盾となります。本講演を通じて、確かな観察眼と徹底した衛生管理を身につけ、安全で信頼されるサロン、そして誰からも選ばれ続けるエステティシャンへの第一歩を共に踏み出しましょう。

略　歴

資生堂グループにて化粧品販売、商品開発に携わり、国内外の美容技術者教育およびサロン運営に従事。その後、技能五輪国際大会出場選手の育成や、看護大学における緩和ケア領域のエステティック教育を担当。現在は皮膚科クリニックでエステティックに携わる傍ら、心と身体に寄り添う美容ケアの普及と人材育成に力を注いでいる。